共働き家族の生活と住ニーズ
―実験集合住宅 NEXT21 における居住実験を通じて―

Life and Living Needs of Double-Income Household
-Through the Habitation Related Experiments in Experimental Housing NEXT21-

○加茂みどり *1,　高田光雄 *2
KAMO Midori, TAKADA Mitsuo

In this research, we try to find the problems of the residence of the working in double harness family who is bringing up a child through the analysis and the consideration of the result of the questionnaire and the hearing investigation to the family who resides in Osaka Gas experimental housing NEXT21. We found 1. There is a possibility that the examination of correspondence to service of delivering to home is needed. 2. It is necessary to examine the ideal way of the method of the reduction and the efficiency improvement of housework and the services that can be trusted, and so on.

キーワード：NEXT21、住み方、共働き、実験住宅、集合住宅
Keyword：NEXT21, Way of living, Two incomes, Experimental housing, Multi-unit housing complex,

1．研究の背景・目的

現在、日本では少子化が進行している。その最も大きな原因は、出生率の低下である。出生率低下の要因としては、非婚・晩婚化、夫婦出生力の低下が主なものとしてあげられるが、その緩和と出生率の回復のためには、夫婦が共に働きながら子供を育てやすい社会環境を構築することが重要である。共働き夫婦のワークライフバランスを整え、子供を産み育てる喜びを誰もが得られる環境は、女性だけでなく男性とっても必要だと考えられる。

しかし、女性の社会進出が進行し、共働き夫婦が増加しているとしても、その多様性にも配慮する必要がある。共働き夫婦には多様な経済層・職種の組み合わせが考えられ、すべてをまとめて共働き夫婦とし、居住の課題やニーズを見出すことは困難である。また、その多様なニーズを生活の背景から検証していくためには、その生活を詳細に調査することが必要となる。

以上のような認識から、本研究では共働き世帯の内、世帯主が中堅企業社員である共働き世帯の調査から、そのニーズと居住の課題を抽出することとした。その結果を分析することにより、該当層の共働き世帯に対応した住宅計画の検討課題を抽出することを目的とする。調査は、大阪ガス実験集合住宅 NEXT21（以下 NEXT21）[注1)] に居住する世帯の内、子どもを育てながら共に就労する共働き子育て夫婦を対象とした。

2．既往研究

共働き夫婦の生活や子育てに関する研究は、主に社会学の分野で、仕事生活と家庭生活の役割の対立・葛藤や夫婦の役割分担に関する研究が行われている。しかし、女性の社会進出はめざましく、その就労環境についても変動が激しいと考えられる。よって最近１０年間の研究成果から、生活や住宅に関する研究の概要を俯瞰すると、以下のようなものがある。

まず生活動向に関するものとしては、室﨑・坂東（小伊藤）らが、保育園に通う乳幼児をもつ家族を対象とし、家事や育児労働の夫婦の分担を中心に分析し、共働き家

＊1　大阪ガス株式会社　博士（工）　Osakagas.Co., Ltd.　Dr.,Eng
＊2　京都大学大学院工学研究科　教授・工博　Prof., Graduate School of Engneering, Kyoto University, Dr.,Eng

族であっても家事や育児における協働関係は男女平等ではないこと、その要因として労働条件やジェンダーに関する教育や意識、子どもの年齢などが関係すること、また協働の度合いが進んでいる場合に妻の満足度が高いことなどを明らかにしている。[文献1)]

住み方や住要求に関するものとしては、同じく坂東（小伊藤）・室崎が、京都市内の保育園に通う子どもを持つ世帯を対象に調査を実施し、乳幼児のいる世帯にとっての住宅には、一定の広さのLDKおよび連続室が、分離室より優先して確保されていることが必要であることを明らかにしている[文献2)]。また小伊藤・室崎は別の研究において、５つの住宅改装事例を詳細に調査し、乳幼児のいる共働き家族の住要求として、LDKを一体化したいこと、LDKを個室に優先させて広くとりたいこと、可能な限り連続室を確保したいことがあげられること、そして家族以外の人が集まる空間としてLDKの存在が重要であることを明らかにしている[文献3)]。伊藤・入澤・沖田は、東京圏に住む子どものいる共働き世帯を対象とした調査を実施し、家事・育児に関する夫婦の役割分担の傾向のほか、通勤時間について夫より妻の方が短い傾向があること、実家との距離も妻の方が近い傾向にあること、預け先としては保育園が多く、緊急の場合に頼る先は妻や夫の親であること、夫は書斎として専用空間を持つ場合が多いが、妻は専用の場（コーナー）を持つ場合が多いことなどを明らかにしている[文献4～6)]。

住戸の空間構造に関するものとしては、安枝・高田による研究があり、シナリオ・アプローチによる住宅計画手法を用い、共働き夫婦の居住空間の構成原理を明らかにしている[文献7)]。また、子どもの生活に着目したものとしては、塚田・小伊藤らの研究があり、大阪市と神戸市の学童保育所に通う低学年児童を対象にその放課後の生活を調査し、子どもだけで留守番をするケースや学童保育所での生活が子どもの遊びのすべてになっているケースが多いこと、親の帰宅時間の遅延化が、子どもの夕食・就寝時間の遅延化や親子のふれあう時間の不足につながり、子どもの家庭生活を圧迫していることなどを明らかにしている。また、大阪市の延長保育実施園の調査からも、同様の傾向があることを確認している[文献8～11)]。

本研究では、これらの先行研究の内容を踏まえ、主に夫婦が共に働いていることが及ぼす不都合に着目し、共働き夫婦の居住の課題を抽出することとした。

3．研究の方法と調査概要

研究の方法としては、NEXT21に居住する世帯のうち、共働き子育て世帯である５世帯の調査結果を分析することとした。調査は生活や住戸や住環境の評価に関するアンケートと、補足のためのヒアリングを実施した。アンケートは2008年12月26日に配布し、１月半ばまでに順次回収した。ヒアリングは2009年３月上旬から４月下旬にかけて、世帯（夫婦）ごとに一世帯あたり２時間程度実施した。

表１　調査世帯の家族構成
※年齢は2009年４月１日現在

世帯	続柄	年齢	職業・学年
A	夫	46	会社員
	妻	45	会社員
	長女	16	高２
	次女	14	中３
B	夫	34	会社員
	妻	35	会社員
	長女	2	保育園２歳児クラス
C	夫	27	会社員
	妻	26	パート
	長男	1	
D	夫	43	会社員
	妻	44	パート
	長男	14	中３
	次男	10	小５
	長女	5	幼稚園年長クラス
E	夫	43	会社員
	妻	38	パート
	長女	11	小６
	長男	8	小３

表２　調査世帯夫婦の勤務形態

世帯	続柄	職業	勤務日	職種等	始業時刻	終業時刻	帰宅時刻	通勤時間
A	夫	会社員	月～金	保安	8:40	19:00	20：00～21：00	1h
	妻	会社員	月～金	事務	9:00	17:00	17:40～18:00	30分
B	夫	会社員	月～金	営業	8:30	20:00	20:30以降	30分
	妻	会社員	4勤2休	空港地上職	早番5:30～9:00 遅番13:30	早番14:00～17:30 遅番22:00	早番18：00前後 遅番0：30	1h40分
C	夫	会社員	月～金	技術開発	8:30	21:30	22:30	30分
	妻	パート	火・水・（土・月に1回）	看護師	16:15	19:30	20:00	30分
D	夫	会社員	月～金	営業技術	9:00	18:30	19:00	25分
	妻	パート	月～金	学生食堂	9:30	14:00	15:00	3分
E	夫	会社員	月～金	企画	9:00	17:40	19:00	25分
	妻	パート	月～金	保育	14:30	18:30	19:30	20分

４．アンケート調査からみた調査対象世帯の生活

表１に調査世帯の家族構成、表２に調査世帯夫婦の勤務形態を示す。世帯Ａは、40代の夫婦で、子どもも高校生と中学生であり、ほぼ子育てに手がかからなくなっていることが推測できる。夫も妻も会社員で、フルタイム就労であるが、妻は残業がなく、勤務地も夫より近い。

世帯Ｂは、30代の夫婦である。子どもは２歳であり、最も子育ての負担が大きい時期である。夫も妻も、会社員でフルタイムで就労しているが、夫も残業がある上に、妻は空港のスタッフとして就労している。早番（早朝出勤）と遅番（午後出勤）を２日ずつ勤務した後、休日が２日という変則勤務となっており、勤務地も遠いため、早番の時は早朝４時に家を出たり、遅番の時には夜中の０時半に帰宅することもある。

世帯Ｃは、夫は会社員でフルタイム就労、妻は看護婦で週２、３日で夕方のみのパートタイム就労である。子どもは１歳であり、出産前はフルタイム就労であったが、産休と育休を取得後、パートタイムで復帰した。

世帯Ｄは、夫は会社員でフルタイム就労、妻は自宅近くの学校の学食で、平日は毎日、9:30から14:00までのパートタイムで就労している。子どもは中学生と小学生の男児、５歳の幼稚園に通う女児の３人であり、家事や育児の負荷が高いことが推測できる。

世帯Ｅは、夫は会社員でフルタイム就労、妻は保育園で保育士の補助として平日は、毎日、14:30から18:30までパートタイムで就労している。子どもは小学生の女児と男児である。

以上より、妻の勤務形態と子どもの年齢による調査世帯の位置づけを表３に示す。調査世帯はすべて、夫が同じ企業の社員であるが、妻の勤務形態には違いがある。世帯ＡとＢは妻がフルタイム就労であるが、子どもの年齢に違いがある。世帯Ａが中・高校生であり、親の手を離れる年齢であるのに対し、世帯Ｂの子どもは２歳であり、最も手のかかる年代である。世帯Ｃ、Ｄ、Ｅの妻はパートタイム就労であるが、世帯Ｃの子どもは１歳、世帯Ｅの２人の子どもは小学生、世帯Ｄの３人の子どもは長男の中学生から長女の５歳まで巾がある。

各世帯の夫婦の家事分担として、世帯の家事全体の内、自分が負担していると思う割合を夫婦それぞれに回答してもらった数字を表４に示す。これをみると、共働きであっても、妻の家事分担が圧倒的に多いことが分かる。しかし、その中でも世帯Ｂと世帯Ｄの夫は、妻の認識とは若干ずれがあるものの、比較的家事を分担している。特に世帯Ｂに関しては、前述の妻の勤務形態から、

表３　妻の勤務形態と子どもの年齢による調査世帯の位置づけ

妻の勤務形態	子どもの年齢		
	乳幼児	小学生	中高生
フルタイム	世帯Ｂ		世帯Ａ
パートタイム	世帯Ｃ	世帯Ｅ	
	世帯Ｄ		

表４　調査世帯の家事分担割合

世帯	夫の家事分担割合（割）				妻の家事分担割合（割）				夫婦以外の家事負担者
	炊事	買い物	掃除	洗濯	炊事	買い物	掃除	洗濯	
A	0～2	0～2	0～2	0～2	9～10	9～10	6～8	9～10	子
B	3～5	3～5	3～5	0～2	9～10	9～10	9～10	9～10	夫の母
C	0～2	0～2	0～2	0～2	9～10	9～10	9～10	9～10	
D	0～2	3～5	3～5	3～5	9～10	9～10	9～10	9～10	子
E	0～2	0～2	0～2	0～2	6～8	9～10	9～10	9～10	子

表５　買い物頻度

世帯	続柄	買い物頻度 回数／週
A	夫	0.5
	妻	5
B	夫	2
	妻	3
C	夫	2
	妻	3
D	夫	2
	妻	10
E	夫	2
	妻	7

表６　調査世帯の家事負担感

世帯	夫の家事負担感				妻の家事負担感			
	炊事	買い物	掃除	洗濯	炊事	買い物	掃除	洗濯
A	全くない	全くない	全くない	全くない	あまりない	あまりない	少し負担	少し負担
B	あまりない	あまりない	あまりない	あまりない	少し負担	少し負担	少し負担	とても負担
C	あまりない	あまりない	少し負担	あまりない	全くない	少し負担	少し負担	全くない
D	全くない	全くない	全くない	全くない	とても負担	とても負担	とても負担	とても負担
E	全くない	全くない	全くない	全くない	あまりない	あまりない	全くない	全くない

表７　調査世帯の育児分担と負担感

	世帯	朝の身支度	持ち物準備	朝食準備	昼食準備	夕食準備	食事の付き添い	送り	迎え	行事やPTA	遊び相手	おもちゃの片付け	勉強をみる	稽古事の送迎	外遊びの付き添い	トイレの付き添い	風呂	歯磨き	寝かしつけ	看護	自分以外の分担者	負担感
夫の育児分担（割）	B	3～5割	0～2割	0～2割	0～2割	0～2割	3～5割	3～5割	0～2割	0～2割	3～5割	3～5割	不要	不要	3～5割	3～5割	3～5割	0～2割	0～2割	3～5割	配偶者・実母	あまりない
	C	0～2割	0～2割	0～2割	0～2割	0～2割	0～2割	0～2割	0～2割	0～2割	0～2割	0～2割	0～2割	0～2割	0～2割	0～2割	0～2割	0～2割	0～2割	0～2割	配偶者	あまりない
	D	0～2割	0～2割	0～2割	0～2割	0～2割	0～2割	0～2割	0～2割	3～5割	6～8割	3～5割	6～8割	不要	6～8割	不要	3～5割	0～2割	3～5割	0～2割	配偶者	あまりない
	E	0～2割	0～2割	0～2割	不要	0～2割	不要	不要	不要	0～2割	6～8割	0～2割	9～10割	0～2割	0～2割	不要	0～2割	不要	不要	0～2割	配偶者	全くない
妻の育児分担（割）	B	6～8割	9～10割	9～10割	不要	6～8割	6～8割	3～5割	3～5割	不要	6～8割	9～10割	不要	不要	3～5割	9～10割	6～8割	9～10割	6～8割	9～10割	配偶者・義母	あまりない
	C	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	配偶者・実母・実父	あまりない
	D	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	6～8割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	9～10割	配偶者	少し負担
	E	0～2割	0～2割	0～2割	不要	6～8割	不要	0～2割	不要	6～8割	3～5割	3～5割	0～2割	不要	0～2割	不要	不要	3～5割	不要	9～10割	配偶者	あまりない

ある程度の夫の家事分担が生活を支えていると考えられる。また、各世帯夫婦の、家事に対する負担感（表６）をみると、世帯Ｄに関しては、夫が家事をある程度分担しているにも関わらず、妻の家事に対する負担感が大きい。買い物頻度（表５）をみると、世帯Ｄ・Ｅ、特に世帯Ｄの妻の買い物頻度が高い。パートタイム就労で時間的に可能だということもあろうが、食べ盛りの男児２名と幼児を抱える世帯Ｄの、こなすべき家事の絶対量の多さをうかがわせる。また、夫がほとんど家事を分担しないにも関わらず、世帯Ａと世帯Ｅの妻は、自身の家事分担をすべて９～10割とは考えていない。自分以外の家事分担者に、子どもがあげられており、小学生高学年以上の子どもが家事を手伝うことにより、妻の負担が軽減されていることがわかる。

家事分担と同じく育児の分担について聞いた回答を表７に示す。育児負担がほとんどない世帯Ａは調査対象としなかった。これをみると、やはり妻の分担が多いものの、家事に比べると夫の分担が多い。中でも「遊び相手」や「勉強」に関する分担が若干多くなっている。自分以外の育児分担者としては、世帯ＢとＣで実母や実父、義母があげられており、乳幼児の育児分担を親族に頼る様子がうかがえる。

５．共働き世帯の住ニーズと居住の課題

本章では、前章の各世帯の状況を踏まえ、ヒアリング調査を詳細にみることによって、各世帯の居住の課題やニーズを抽出する。ヒアリング調査の内容を全て書き出し、その中から、「家事」、「育児・子ども」、「余暇」に関するコメントで、就労に関係するものを抽出した。

5-1. 家事について

まず各世帯が、日常の買い物に関して関心が高く、工夫をしていることがわかる（表８）。世帯Ａは、通勤経路上の駅、特に自宅から最寄駅までの間に買い物場所がないことに不便を感じ、勤務地の最寄駅で軽量のものを購入し、重いものは個別宅配による買い物を頼んでいる。また自宅近くの商店街の閉店時間が早いことにも不都合を感じている。世帯Ｂは休日にまとめ買いをし、かさばる物の運搬に苦慮している。世帯Ｃは多くの課題はないものの、買い物の短時間化をはかっている。世帯Ｄの買い物量が非常に多いことがうかがえ、夫婦で順番に買いに行くなどしている。世帯Ｅも仕事の帰り道の「デパ地下」を利用し、出来合いのものを利用している。

また、調理の作りだめ（世帯Ｂ）や、出来合いの調理品を購入すること（世帯Ｅ）で、家事の効率化や軽減を図る一方、つい最近まで専業主婦をしていた世帯Ｄと世帯Ｅの妻は、家事にかけられる時間が少なくなり、以前と同じ量の家事をすることができなくなったと考えている。家事の効率化は、フルタイム就労の世帯だけでなく、納得感のある家事をこなしてきた専業主婦がパートタイムで就労する時にも発生するニーズとなる可能性がある。

そして、アンケートでみられた子どもによる家事分担が、ヒアリングからも確認できた。

5-2. 育児について

育児については、妻が同じフルタイム就労でも、世帯Ａの子どもが成長し、ほとんど負荷がないのに対し、世

帯Ｂにとっては多大な負荷となっていることがわかる（表９）。親族の協力を得て、なんとか就労を継続しているが、妻の身体的疲労は大きい。しかしながら、ベビーシッターに頼むことについては、その信頼性からためらいや抵抗がある。

妻がパートタイム就労の世帯Ｃ・Ｄ・Ｅについては、育児の負荷が、現在はそんなには大きくないこと、しかし、世帯Ｄにおける３人の子どもの育児負荷が以前大きかったことが推測できる。また、育児負荷は少ないものの、世帯Ｅの妻は、子どもとふれあう時間が短いとしている。

5-3. 余暇について

余暇については、個人の活動性に寄るところが大きいが、総じて夫は比較的趣味の時間を持ち、それに関連して自分の個室に対するニーズも高い。しかし、世帯Ｂに関しては、夫婦ともに余暇を楽しむ時間は全く残されていないことがわかる（表 10・12）。

世帯Ｃの妻は、平日２日しか就労していないこともあり、比較的余暇を楽しむ余裕がある。しかし、同じパートタイム就労であっても、平日毎日就労している世帯Ｄの妻は自分の余暇を楽しむことや自分の個室についてはほぼあきらめているコメントがあった。世帯Ｅの妻も、ほとんど余暇に関するコメントはなかった。また総じて

表８　家事に関するコメント

A	（妻）**（家事の負担が減ってきて、その代わりに家事を負担しているのは）主に子ども**やろね。 （妻）**（最寄の駅に）買い物しに行くところがないんですね。**空堀の商店街に行くしかないんで。**で、（個別宅配での買い物を）始めたんです。** （妻）逆に、**（勤務先の）駅前で、地下鉄乗る前に（買い物を）済ますことはありますけど。** （妻）で、**重たいものは個別宅配**で買う。 （妻）（子どもに）ご飯、炊いといてとかいうのは、しょっちゅうあるし、洗濯物入れといてとか、干すとかね。 （妻）**じゃがいもとか、牛乳とかをわざわざ買いにいくのは大変。** （妻）６時に起きて、６時 40 分までに（弁当を）つくり終わってるんで、朝、家を出るまでに洗濯する。 （妻）一番早く帰るのは私ですから、私が洗濯物を入れるか、たまたま帰ってきたら娘に入れてもらうか。 （妻）（最寄の商店街に寄るのは、）２回も大きい道路渡るのはね、帰りにちょっと何かヘビーな感じが。なさそうで、結構距離が、若干ある。で、持って歩いて帰ってくるんですね。結構……。 （妻）（家が）片付かない。それは変わってないですね。 （妻）空堀の魚屋さんがあいている時間、あそこ早いんで、**６時ぐらいに閉まっちゃうんですよ、商店街の小売りさんは。**だから、５時に終わって、間に合うときは空堀回ったりするんやけど。
B	（妻）結構も**う何かとか、適当**にしといたらいいっていうんですけど、それができないんですよ、何か。洗濯もして寝ないといけないし、食器も絶対洗って寝ないと嫌やしっていう、何か。やっぱりそういうもあって。 （妻）そうですね。時間的な問題と、あとはまあ、勤務先が遠いっていうところもありますね。それもちょっと。 （妻）**（買い物は）休みの日に行き、いっぱい買ってきますよね。**で、遅番の２日目に早番の分と、休みの日に多目につくって、翌日も同じメニューで、温めたらいいような献立にするようにしてます。やっぱり帰ってきて、材料切ってね、何か炒めてっていうのは結構大変なので。**できる限りオフのときにつくりだめ**というか、それをして、翌日に食べるっていうふうに。 （妻）（個別宅配は）あれも何か結構便利そうだなと思いながらも、結局買いに行ってますね、何か自転車で。やっぱり子供もね、外に出たがるから、どっちにしろやっぱり買い物に一緒に連れていくのもね。なので、そこまで苦痛には感じてないですけどね。子供と一緒に休みを過ごしてるので。 （妻）**（かさばる物を買った時は）自転車に積むのにいつも苦労してます。** （妻）（夫は家事を）やってるつもりなんです。 （夫）（自分の家事分担は）３割くらい。 （妻）（仕事に復帰して、夫は家事を）してくれるようになりましたね。洗濯とか。 （妻）子供が特に食べ物とか、もうパンくずとかお菓子のくずとか落とすから。そういうのを。（床は）フラットいうてもこういう、（フローリングの板と板の間に）あんまり溝がないようなタイプの方が手入れがしやすい。
C	（夫）（買い物は、土日に）そう、多分、一緒に行ってると思うんで。 （妻）（洗濯は）子供、目離せないんで、今。寝てから全部やってしまう感じですね。 （妻）ベビーカーで行くときとか、**時間があるときは八百屋さんとかで１個ずつ買ってたんですけど……。パートし出したら、やっぱりこう、ぱっと買ってばっとっていう時間がね、**どうしても、ね、楽なんで、楽なほう（スーパー等でまとめ買い）に行っちゃうんですけど。
D	（妻）８時半過ぎぐらいに、遅くても 45 分ぐらいには家出て送っていって、で、帰ってきて、そのままパート行って、帰ってきて、そのまま幼稚園迎えにいって。だから、帰ってきたら朝食べっぱなしのまま、ここに、はい。 （妻）**（パートに出て、家事をする時間が）少なくなりましたね。**もうでも放ったらかしてます。もういいかって、ここまで、**食べることが精一杯です。ね、もう子供３人いたら。だから、ある程度はもういいやって。**だから、布団も何日か敷きっぱなしのときもありいの、もう片付けなくても、ね、子供らがもう引っ繰り返していても、もういいやって、半分あきらめながら。 （夫）だから、いまだに料理は、だから、あのー、きっちり週に何回という形じゃないですけど、よくやってる方なんです。 （夫）朝早く起きるじゃないですか。そうすると、何するでもなし、やることといったら取りあえず洗濯が山ほどあるんで、それを取りあえず洗濯機に放り込んでスイッチオンまではやるんですよ。 （妻）（夫は）そんな家事なんて今まで絶対しなかった。 （夫）うち、**麦茶の消費量が異常に多いんですよ。毎日５リットル沸かしてるんですよ。一応必要量としてはやっぱりそんだけ沸かしておかなきゃいけないんで、**それを火をつけるぐらいのもんですかね。 （妻）**（買い物は）毎日ですよね。だってすごい食べるんですもん。**びっくりするぐらい。で、パパも、あのー、日曜日コーヨーが安いって分かってからね、**二人で協力して卵を、20 個あってもあっという間なんで、だから二人でもう順番に買いにいったりするんですね。** （妻）**（１日に）お米は８合炊いて２回分ないですね。**お弁当で。夜にもうお弁当用に（炊飯器を）仕掛けといて、で、朝お弁当に詰めて、で、晩でなくなるときがあるんですよ。
E	（夫）**（妻の方が帰りが遅いので）だから俺と娘がご飯炊いてるんです。** （夫）（子どもの家事参加が増えていることについて）毎日じゃないですけどね。ご飯炊きは毎日で、洗い物なんかも教えてるんで、今。嫌がってますけども。 （妻）前は家にいたときは、すごい煮物とか、時間を掛けてカレーとかロールキャベツとかそういうのをやってたんですけれど、今はもう、ね、買ってきたり。**時間がなかったらもう帰り道に近鉄に寄ってできたやつを買ってきたりして出したり。で、時間掛けてしたいものは土日に回ったりしてます、はい。結構手を抜くようになりました。**できたものを買ってきたり。コロッケとか。 （妻）前は専業主婦だったんで、お布団とかも結構干してたんですね。　で、パートに行きだして減りました。干すのが。 （妻）（近所の商店街の他に、**買い物によく使うのが）デパ地下ですね。いつも、仕事の帰り道なんですね。**近鉄が。だから、はい。行きやすいです。

表９　育児・子どもに関するコメント

A	(妻) 昼間、**(家に子どもしかいなくても) 自分らで作って勝手に食べてますからね。** (妻) (春休み、夏休みの間、仕事で両親が留守でも) 全然、大丈夫やね。ほったらかしやね。 (妻) (子どもの送り迎え不要になってきたことについて) 勝手に行って、勝手に帰ってきてくれるから。
B	(夫) 日曜日、終日一人で子供をみるのはしんどいので、妻の休みを日曜日にしてもらった。 (夫・妻) 早番の時は、夫が子供を保育園まで送り、妻が迎えに行く。 (夫・妻) 遅番のときは、妻が保育園まで送り、夫の母が迎えに行く。または、妻が勤務前に妻の実家に送りにいき、休日に迎えに行く。 (妻) **実際ほんとうにもう死にものぐるいでやってたんですよ、フルで働いてたときは。**やっぱりほんとうに休み (週に) ２日間、育児休暇いただいて、大分楽になったんですけど。**やっぱり寝不足とか、精神的にもちょっと、胃腸炎とかにもなってしまうぐらいハードで。帰ってきたらもうご飯の準備。洗濯もいっぱいあるじゃないですか、保育所行ったら。で、子供もやっぱり甘えて泣くし、最初のほうは。で、家帰ってきても、なかなかこう家事のほうが進まない状況の中、またあした早番っていうプレッシャーもあって。**でも、睡眠とかもあんまりとれなかったんですよ、最初は。寝るのも１１時半とかだったので、睡眠時間も３時間とか。そういう、あの。育児とやっぱり仕事をともにすると難しいなっていうのは思いますよ。 (妻) **(ベビーシッターを頼むことについては) やっぱりちょっと抵抗もありますよね、**何か。**違う方が家の中に入られて、ほんとうに自分の子供をちゃんと見てくれるのか**というようなところでは不安があったので。まあ、両親も来れる近さなので、甘えてみようかなと思いまして。 (妻) ただ、やっぱりベビーシッターの人に来てもらったら、逆に (気を使わずに) 割り切れるっていうところがありますね。 (妻) (ベビーシッターを頼むことについては) 虐待とか何かすごいのを結構見たりしてるじゃないですか。だから、そういうところですとか、あとは、家の物なんか見たりしいひんかなとか思いますよね。 (妻) (仕事の継続は) 周囲の協力なしではもう絶対無理なので。 (妻) 託児所とかね、空港にあったら一番。託児所とかね。 (夫) やっぱり朝の送りとかぐらいなんですけどね。やっぱり泣かれたりとかしたらすごい大変で。
C	(妻) クリニックで働いてるので、(働いている間、子どもを) ２階で院長先生の奥さんが見てくださってるんですよ。
D	(妻) 学食なんで、夏休み、春休みあるんで、一応普通の授業のある日は毎日行ってるんですよ。・・・できたら週に３回ぐらいのパートが本当は良かったんですけど、そのつもりで入ったんですけど、ちょっと実際違ってて。まあ夏休みあるところの方がいいというので学食を選んだんですけどね。１週間テスト休みとか。だからちょうどそのとき期末が息子と重なったりしたらいてあげれるじゃないですか。だからその辺はね、すごく。夏休みがあるって、子供に、ねえ、休み一緒にいれるというのは、なかなかパート出れないですもんね。幼稚園児いたら。だからいいかなと思って。昼の仕事だし。 (妻) 子供が呼ぶんですよ。パパと一緒に寝るって、女の子がね。今まで寝かし付けなんかしたことないんです。大体寝かし付けてても結局子供が寝えへんかったら、ねえ、やっぱり無理とかって、上の子はそんなんだったんですけど、下の子はもう「パパと寝る」とかって言って、すごい女の子で助かるんですけど、一緒に寝たがって、呼んでくるとかって、私じゃ不服なのねってとか。でも助かるんですよ。(風呂も)「パパと入るからお母さんいい」とかって言ってくれるから、**今までずっと、ほら、負担だったんですよ、２人も、３人もね、洗って、自分がのぼせても入らないといけなかった**のに、「パパと入る」、ああ楽とか思って。ねえ、しんどいですよね。**自分の時間全部取られちゃいますもんね。すっと寝てくれたらいいけど。だから、ドラマなんかもうずっと何年見れなかったか。** (妻) (夫の育児参加が) すごく増えました。女の子によって。
E	(妻) **パートを始めたのであんまり、子供たちとゆっくり話す時間が前よりなくなりました。**平日はもう帰ってきたら夕食の支度とか、あとお風呂沸かしたり。そんなんで精一杯です。

表 10　余暇に関するコメント

A	(夫) そうですね。まあ、あの、ゆっくり本、読んだり、あの、外乱のない、佳境とか言わんですけど、静かなところにおりたいときは、自分の個室があったらええかなとは思うんですけどね。 (夫) **休みの日がもうそっち (ラグビー)。** (妻) **(趣味のバレーボールに関して)** もう、あまり行ってないけどね。**月に２回、行ったらいいほうか。**ぐらいやね。日曜日。 (妻) (趣味の手芸に関して) あんまり、このカバーを縫って、というくらいで。
B	(妻) **(趣味にかける時間がなく) ほんとうにガーデニングとかは何かやっぱりね、皆さんよくされてるから、ちょっと力入れたいところなんですけど。** (妻) **(コミュニティの行事など)** 私もすごく行きたいんですけど。私、結構ね、そういうの、社交的なほうなんです、私は。そういうのにすごく**参加したいんですけども。ちょっとね、休みが。子供がいて、私も働いててイベントに参加できないっていうのがちょっと申しわけない**なと思うんですよ。 (夫) **(趣味のテニス・ゴルフ・自動車について) いや、もうそれもね、その３つはほとんどやってないですね。だから、やっぱり僕も休日なんか子供と一緒に何かやってたりとかしたら、もうその辺のこともやる暇ほとんどなくなってるというのが実情ですね。** (妻) (地域のお祭などにも) 行きたいなと思いながらも行けてないですよね。
C	(夫) (趣味の野球などについて) だから、そう機会がね。やりたいのはやりたいんですけど、やっぱりこうね、機会がないと。 (妻) (趣味のハンドメイドについて) 今はちょっとしてないです。 (妻) (趣味の庭いじりについて) 玄関の前です。せっかくあるんやし、と思って。何か、やっぱり、**子供を産むまでは仕事してたんで、**もう何かいいわと思ってたんですよ。何かもう、ちょっと**ほったらかしでもいいわと思ってたんですけど、やっぱりちょっと余裕が自分にできると、そういうとこも見えてきて、何かきれいにしようかなとか思って、やるようになりましたね。** (妻) (趣味のエレクトーンについて) なかなか、弾いてたら (子どもが) 邪魔しに来るしな。寝ちゃうとき弾けへんしな。(子どもにエレクトーンをさわらせてあげることはあっても、) こう、自分が好きに弾いてない感じですね。 (妻) 子育て支援センターに行ってます。行けるときに。 (夫・妻) (外食は) 子どもができて、そうやね、ちょっと減ったね。 (妻) **(子どもができて) やっぱり、行動範囲は狭まりましたね、**やりたいこととか。１人のときは、もっと何かやりたい、これしたいっていったらすぐ動けて、で、大阪も初めてだったんで、ずっと京都だったんで、行きたいところにもいろいろ行って、自分で、ねえ、行動できたんが、子供ができたら全然できないし。で、ちょっと仕事とかできて気が晴れた感じで。だから、私、多分、ほんとは仕事をしたいんだと思います。 (妻) (個室ニーズについて) 多分、大きい部屋は要らんねんな、２人とも。書斎的なこう、パソコンとかこう、３畳ぐらいのスペースでいいねんな、３畳、４畳ぐらいの。ちょっと趣味ができる・・・。 (妻) (立地のよさについて) そうですね、すごい、行動するには、１人で。楽しかったんですけど。今は……。出かけても、何かゆっくり、もの、見させてくれませんよね、子供って。ベビーカー押してても、「嫌」って言うし。
D	(夫) ベースを、親父バンドを組んでやっています。不定期なんですけど、会社終わってからですね。会社終わって、６時半に、心斎橋にスタジオがあるんですけど、そこ集合みたいな感じで。 (夫) 天体観測も昔やっていたのを復活してやってみた。 (夫) オートバイ、オーディオの趣味は相変わらず。 (妻) (個室が) あったらいろんな趣味ができるんですけど、私、今、趣味持ったらとんでもないですよね。どんだけお金掛かるのって。だからね、**裁縫したりっていう人とかだったら、本当にミシン出しっ放しでいつでも使えるようにって部屋があればね、できますけどね。それも今は無理ですね。出しっ放しにしたら子供たちが危ないし。**
E	(夫) **棚田 (の世話に) 行ってますね、今は月に１～２回ですかね、**生駒の方に。 (夫) 博物館なんかのイベントあるんですよ。カエル見に行ったり、捕まえに行ったりとかね。下の子はそういうのは喜んで行きますけどね。上の子はもう行きたくないって言うてますね。 (夫) (棚田以外にも) いろいろです。定期的にやってるんで、大体月に２回野外があって、土日は潰したときがあって。で、月に２回ウィークデーがあるんですよ。 (夫) **(土日は) もうほとんど (趣味の活動で) 潰してますね、はい。** (夫) (ガーデニングは) 僕の方がメインでね。あまり手は掛けてないですかね。 (夫) (個室のニーズについて) 自分一人でゆっくりしたいときにね。本読んだりいろいろ。

妻は、外食を楽しむ機会も少ない（表 11）。

6．まとめ

前章の結果をまとめると、表 13 のようになる。世帯 A は夫婦ともにフルタイム就労であるが、2 人の子どもが中高生であるため、育児には手がかからず子どもも家事を手伝うため、家事・育児の負荷は大きくない。しかし毎日の買い物は通勤途上に限られ、買い物に個別宅配も利用している。世帯 B は同じく夫婦ともにフルタイム就労であるが、子どもが乳幼児期であり、妻の勤務も遠方における変則勤務であるため、家事・育児の負担が大きい。買い物も休日に限られるため、まとめ買い・作りだめをしている。しかしシッターサービスの利用には抵抗があり、親族に育児分担を頼っている。夫婦ともに余暇を楽しむ余裕は全くない。世帯 C も子どもが乳幼児であるが、妻がパートタイム就労で、勤務も週に 2，3 日であるため、家事・育児が大きな負荷とはなっていない。世帯 D・E は妻がパートタイム就労であるが、平日は毎日勤務しているため、就労前よりも家事にかける時間が少なくなったと感じている。特に世帯 D の子どもは中学生と小学生の食べ盛りの男児 2 人とまだ手のかかる幼児の女児の 3 人であるため、家事の負荷がとても大きく、家事に手が回らないと感じている。妻は余暇を楽しむこともあきらめている。それに対し世帯 E の子どもは小学生 2 人であり、子どもが家事を手伝い、家事・育児が世帯 D ほどの負荷とはなっていない。しかし子どもとゆっくり話す時間がないと感じている。

以上より、世帯主が中堅企業社員である共働き世帯に対応した住宅計画の検討課題として、以下の点がある。

①就労する妻の買い物は通勤経路に規定され、利便性の高い買い物場所がない場合、個別宅配などのサービスを利用する可能性があり、宅配サービスへの対応の検討が必要となる可能性がある。

②家事の軽減や効率化は、フルタイム就労する世帯だけでなく、育ち盛りの子供を持つ世帯、専業主婦からパートタイム就労を始めた主婦においてもニーズがある。一方でプライバシー等の理由から、シッターサービスについてはニーズが抽出できなかった。就労する妻は、子どもとふれあう時間や、余暇活動が少ない可能性があり、その時間の確保や健康のためにも、家事の軽減や効率化の方法や、信頼できるサービスのあり方に関し、検討していく必要がある。

③小学生高学年以上の子どもは、家事の担い手となる可能性がある。また、親族による育児や家事に対する協力も存在する。妻だけでなく、夫、子ども、親戚、そして可能性としてはサービス業者も含め、多様な人が、同じ

表 11　外食の頻度

世帯	続柄	平日の外食回数 / 週 朝	昼	夜	休日の外食回数 / 週 朝	昼	夜
夫の頻度	A	0	5	3	0	2	1
	B	0	2	1	0	0	月に 1
	C	0	5	2	0	1	1
	D	0	5	0	0	1 ～ 2	1 ～ 2
	E	0	5	0	0	0	0
妻の頻度	A	0	1	0	0	0	0.25
	B	0	0	0	0	0	月に 1
	C	0	0 ～ 1	0 ～ 1	0	0 ～ 1	0 ～ 1
	D	0	0	0	0	1	1
	E	0	0	0	0	0	0

表 12　個室に対するニーズ

	夫のニーズ					妻のニーズ				
世帯	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
個室の必要性	必要	不要	必要	必要	必要	不要	不要	必要	不要	不要

表 13　ヒアリング結果のまとめ

世帯	妻の勤務形態	子どもの年齢	生活状況及びニーズ 家事	育児	余暇
A	フルタイム	中高生	通勤経路上に買い物場所が必要。 重い物は個別宅配を利用。 子どもが家事を手伝う。	育児には手がかからない。	ある程度の余暇を楽しむ余裕がある。
B		乳幼児	休日にまとめ買い・おかずの作りだめをする。 買い物時荷物を自転車に積むのに苦労する。	家事と合わせ、身体的にかなりの負担となっている。 シッターサービスの利用には抵抗がある。	夫婦ともに余暇を楽しむ余裕は全くない。
C	パートタイム	乳幼児	手早く買い物を済ませたい。	育児負荷は軽い。	ある程度の余暇を楽しむ余裕がある。
D		中学生 小学生 幼児	家事をする時間が少なくなり、手が回らない。 夫婦で何度も買い物に行く。 家事の絶対量が多い。	3 人の子どもの育児負荷は重い。	夫は余暇を楽しむ余裕がある。 妻は自分の余暇はあきらめている。
E		小学生	通勤経路上で買い物をする。 出来合いのおかずを買う。	子どもとゆっくり話す時間がない。	夫は余暇を楽しむ余裕がある。 妻は余暇についてのコメントはない。

住戸内で家事をすることを想定しなければならない。

④同じ経済層と考えられる共働き子育て世帯であっても、就労形態、子どもの年齢や人数によって、育児や家事の負担には量・質に違いがある。住戸の可変性のあり方など、個別的・短期的な住ニーズへの対応を検討する必要がある。

注釈

注 1）ＮＥＸＴ 21 は大阪ガス㈱により企画・建設され、1993 年に竣工した。地下 1 階、地上 6 階の鉄筋コンクリート造、18 戸の集合住宅である。実際に社員が居住する実験が 3 階以上の 16 戸の住戸で行われている。

参考文献

文献 1）室﨑生子、坂東亜希子：乳幼児を持つ共働き家族の生活動向に関する研究 ―主として家事・育児労働の分担を中心にして―、都市住宅学 27 号、都市住宅学会、pp.31 ～ 36、1999

文献 2）坂東亜希子、室﨑生子：乳幼児のいる共働き世帯の住み方、都市住宅学 27 号、都市住宅学会、pp.37 ～ 42、1999

文献 3）小伊藤亜希子、室﨑生子：改装等の事例にみる乳幼児のいる共働き家族の住み方と住要求、都市住宅学 29 号、都市住宅学会、pp.27 ～ 32、2000

文献 4）伊藤香織、入澤敦子、沖田富美子：共働き家族の住居とライフステージに関する研究その 1　夫と妻の家事・育児行為の役割分担、日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）、E-2 分冊、pp.317 ～ 318、2003

文献 5）伊藤香織、入澤敦子、沖田富美子：共働き家族の住居とライフステージに関する研究その 2　住環境および子どもの預け先について、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、E-2 分冊、pp.203 ～ 204、2004

文献 6）伊藤香織、入澤敦子、沖田富美子：共働き家族の住居とライフステージに関する研究その 3　家事行為を行う空間と妻の専用空間について、日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）、E-2 分冊、pp.175 ～ 176、2005

文献 7）安枝英俊、高田光雄：生活単位の個人化という視点から共働き夫婦の居住空間の構成原理に関する考察―集合住宅の空間構造に関する基礎的研究　その 3、日本建築学会計画系論文集、№.568、pp.17 ～ 24、2003

文献 8）塚田由佳里、小伊藤亜希子：共働き・ひとり親家庭における子どもの放課後の生活に関する研究―大阪市・神戸市内の民設型学童保育所を利用する家庭を対象に、平成 17 年度日本建築学会近畿支部研究報告集、pp.205 ～ 208、2005

文献 9）塚田由佳里、小伊藤亜希子：共働き・ひとり親家庭における子どもの放課後の生活に関する研究―大阪市・神戸市内の民設型学童保育所を利用する家庭を対象に、日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）、E-2 分冊、pp.189 ～ 190、2005

文献 10）小伊藤亜希子、岩崎くみ子、塚田由佳里：帰宅時間の遅延化が子どもの家庭生活に及ぼす影響―延長保育実施園に通う子どもの調査より、日本家政学会誌、vol56、No.11、pp.783 ～ 790、2005

文献 11）塚田由佳里、小伊藤亜希子：親子の帰宅時間の遅延化と親の生活スタイルが子どもの放課後の生活に与える影響―学童保育所に通う子どもの調査より、日本家政学会誌、vol58、No.5、pp.231 ～ 246、2007

文献 12）加茂みどり、髙田光雄、安枝英俊：少子高齢社会における住宅計画の検討課題、住宅系研究報告会論文集 3、日本建築学会、pp.97 ～ 106、2008

文献 13）加茂みどり、髙田光雄：乳幼児期の子育てに起因するリフォームニーズ―SI 型集合住宅におけるリフォームに関する研究その 1―、日本建築学会計画系論文集、No.599、pp.25 ～ 32、2006